

おとなの学びをワークショップで語ろう！ ～新しい公開講座を考える～実施報告

仲 嶺 政 光

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授)



1. はじめに

さる 2013 年 11 月 2 日、「おとなの学びをワークショップで語ろう！～新しい公開講座を考える～」という行事を実施した。この行事は、富山大学の公開講座・公開授業、富山市市民学習センター、富山県民生涯学習カレッジなどで学んでいる方々、すなわち日々生涯学習を実践している方々を対象に、「おとなの学び」について論議することを目的として開催した。

これまで、受講生アンケート等で学習の効果や満足度を調べる方法をとってきたが、公開講座受講生の「生の声」を拾い上げることは十分になされてこなかった。よって、今回は講演会方式はとらず、グループワークを中心とした構成をとることにした。

ワークショップについて、「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり創り出したりする学びと創造のスタイル」（中野 2001：11）という定義がある。すなわち自ら参加し学び・創造する「型」であり、伝統的な学校教育の教え・学びとは異なる方向性を持つものであると言える。既存の学校的な学習は、「教えなければ学べない」という「凝り」の学習観からなかなか自由になれないし、学校に独特の規範が数多く存在することで学びの可能性に大きな制約をもたらすことになる（荻宿 2012：71-81）。

今回、生涯学習実践者の方々の集いにこのワークショップの手法を取り入れたのは、次のような理由からである。①いま、理想的な公開講座≒生涯学習として求められているのはどのようなものかを探りつつ、②双方向・参加型の行事で学びの「語り」を展開することで、自分の追究している学びを振り返り、創造性や発見の豊かな集いとするためである。

議論の柱は、「今学んでいること」と「今後こういう学びの場が欲しい」の2つとした。現在の学びを相対化し、新たな学びの「要求」を展望する流れをつくるためである。

また、受講生のグルーピング方法は、学習内容に偏りがないように割り振った。多様な学びが存在すること知る機会を提供するためである。

(参考文献)

- ・ 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編（2012）『まなびを学ぶ』東京大学出版会。
- ・ 中野民夫（2001）『ワークショップ 新しい学び』岩波新書。

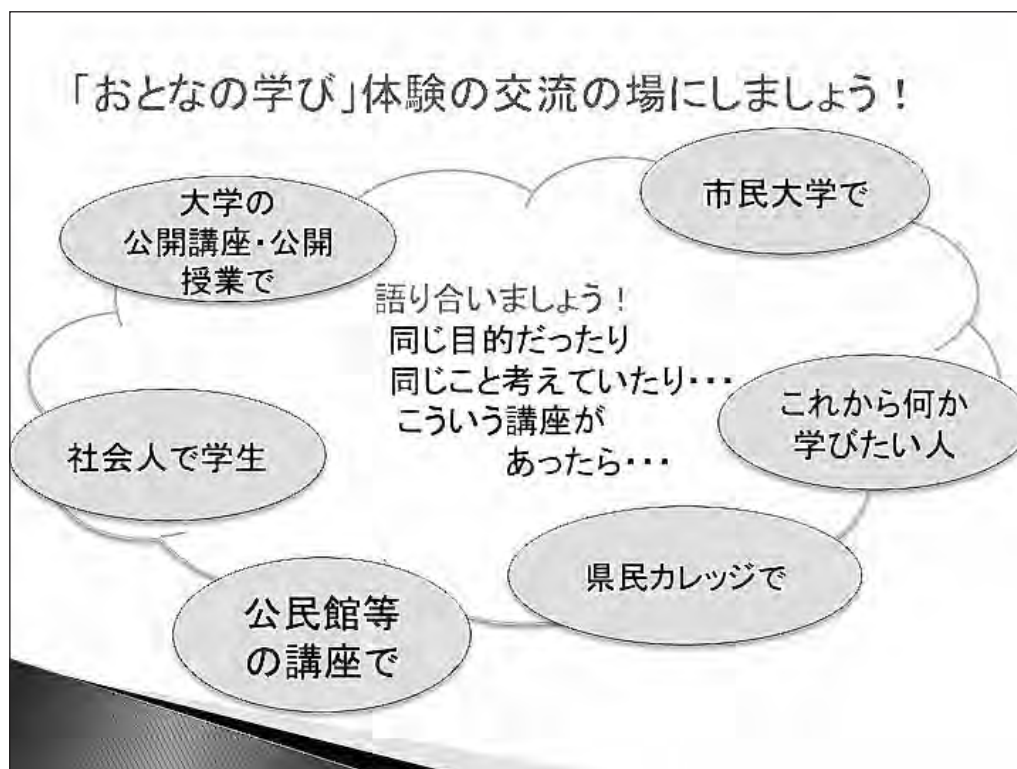
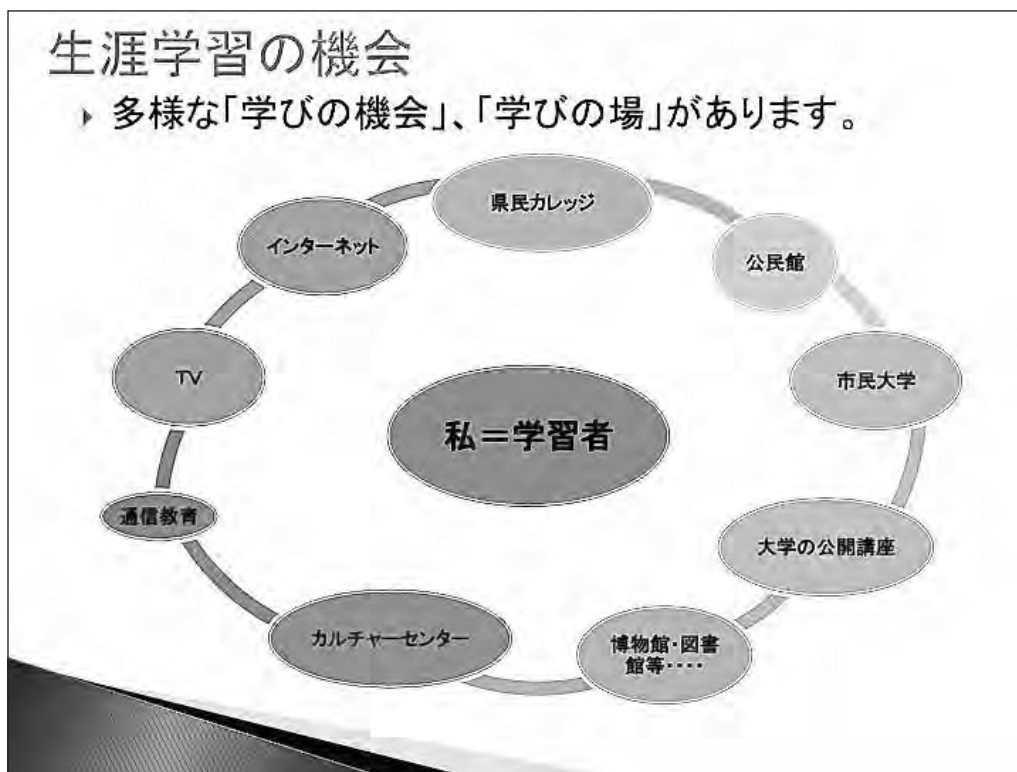


2. 開催概要

- ① 名 称 おとなの学びをワークショップで語ろう！～新しい公開講座を考える～
- ② 主 催 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門
- ③ 後 援 富山県教育委員会、富山市教育委員会、高岡市教育委員会
- ④ 日 時 平成25年11月2日（土）10：00～12：00
- ⑤ 場 所 富山県民会館 3F 304号室（特別会議室）
- ⑥ 内 容
 - 9：30～10：00 開場・受付
 - 10：00～10：10 開会あいさつ（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長 竹内 章）
 - 10：10～10：15 趣旨説明（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授 仲嶺 政光）
 - 10：15～11：30 ワークショップ
 - ワーク①今の学びを語り合おう
 - ワーク②こういう学びの場がほしい
 - （休憩 11：05～11：15）
 - ワーク③まとめ
 - 11：30～11：45 発表（各テーブル3分程度）
 - 11：45～12：00 総評・閉会あいさつ（富山大学長 遠藤俊郎）

3. 趣旨説明

ワークショップに先立ち、参加者のみなさまに今回のワークショップの目的・趣旨、各グループでのワークの進め方について説明した。



4. 発表内容とファシリテータからのコメント

【Aグループ発表内容】

Aグループです。私たちは、自己紹介を含めて、自分自身が今どんな学びをしているのかということ、紹介することからはじめました。十人ぐらいのグループで、それぞれがそれぞれの学びに満足している一方で、これからの学びには、何が必要かということ話し合いました。これからの学びには何が必要かということで、最終的に話し合った結果、「他とのかかわり」が必要である、ということが見えてきました。具体的に言えば、受講者の横のつながりが欲しい、という意見や、最近インターネットとか便利になってきていますが、画面をみて学ぶだけではなくて、交流も大事である、とか、受け身の講座ではなくて、自分から参加していくことが大事である、という意見が出ました。

さらに具体的に、まずフェイス・トゥ・フェイスということから、顔の見える交流をしましょう、それが地域コミュニケーションの力にもなりますよ、と。笑顔が出せるような学びが欲しいですね。あと、座学ではなく、参加型の学び、これも大事だということが出ました。もちろん、質の高い講義を求められる一方で、他の文化を理解する気持ち、これも大事だな、と。そのためには、自分のことを紹介しよう、ワークショップ、今回のような話をすることも必要だな、という意見も出ました。で、最後のまとめは、座って、受け身の授業、知識を詰め込む講義、学びではなくて、これからは、人とかかわりや、ふれあいを通して、自らの視野を広げながら、大きな心をもって人から学ぶという姿勢で学ぶ、これがおとなの学びにつながっていくのではないのかな、というまとめになりました。

【Aグループファシリテーター（佐々木啓介：県民カレッジ）からの感想】

（1）討議の流れはどのようなものでしたか。

- ・「今の学び」に対する出席者の皆さんの誇り、自信、満足感を再認識していただくために、ワーク①の時間をもう少し長くしたかった。1グループ10人程度のレイアウトは、声も届く範囲に配置されているので適切であると感じた。
- ・一方、ポストイットを貼り付けていく作業や、それをもとにした更なる意見交換の場合は、対面型では文字が逆になるためやりづらかった。
- ・グループ毎にホワイトボードに貼り付けて、意見交換ができればいいと思いました。
- ・自己紹介や、意見交換をするときは、デスクを囲み、話題提供や意見交換ができる対面型のレイアウトでとてもよかったかと思います。
- ・ワーク②についてはワーク①を土台にしているので十分な時間であった。
- ・あっという間のワークショップでした。

（2）本ワークショップの感想をお願いいたします。

- ・「学び」とは人をととても穏やかにすると感じました。ゆとりを感じたというべきでしょうか。とても素敵な皆さんとお話できました。
- ・退職後の「学び」が現在の自分を作っている、という発言はとても印象的でした。
- ・とても素敵な企画。美味しいところを味わったのは、企画側、参加者、協力者の全員でしょう！

・休み時間の情報交換がとても有効に感じました。他グループとの交流は難しいと思いますが今回のワークショップを同メンバーで、グループをシャッフルしてやるとおもしろいかも。

・大学院生の参加がとてもよかったです。ファシリテーターのサポート役として見事でした。60歳から80歳の方々のメンバーが多い中、現役の学生の参加があり、新鮮でした。前向きに、真面目に授業を受ける姿勢を感じました。なかなかやるじゃんと思いました。

親の世代として、教育という財産を次世代に残す使命をあらためて実感した次第。

【Bグループ発表内容】

Bグループでは、皆さんのグループと同じように、いろんな形で学んでいるという話をしました。もちろん、中には満足しておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、どうしても必要にせまられて学んでいるという方もいらっしゃいました。その中で、問題として、いろいろ出たんですが、自分に合う・合わない、というのが問題になりました。それには、やはりやる気の問題があるのではないか、講師の先生に問題があるのではないか、というような話も出たんですが、結論は出なかったんですけど、合う・合わないをうまく解決する方法として、講座内容の明示化があればよいのではないか。そして、もっと講師と受講生をつなぐものがあれば、マッチングの不一致が少なくなるのではないか。では、どうやって、という話になって、例えば講座を始めるときに、ガイダンスみたいなものを開いて、「この講座では、このようなことをします」ということを受講生の皆さんに知らせて、それで、じゃあこの講座を受けようか、という形をとるとか、それから、もう既にやっておられるところもあるということですが、OB会の方が入っておられて、どうしてもついていけない、レベルに追いつかない方に手助けをする。そういうことがあったり、旅行をすることで、講師の先生と受講生が親密になっていくのではないかと、ということがありました。そういうことが続けば、終了後の講座を継続して続けるとか、もっと先生と関わる、そういう場が出てくるのでは、ということがあります。それから、これは別の話になるかも知れませんが、現地学習があるのがとても人気だと。もしかしたら、これは講師の先生に対するうったえだと思いますが、そういう人気のある講座がやる気につながって、OB会に入って、盛り上がっていくのではないかと、という話になりました。

【Bグループファシリテーター（藤田公仁子：生涯学習部門）からの感想】

（1）討議の流れはどのようなものでしたか。

県民カレッジの受講者、企業でOJTを担当し実践している方、市民大学の講座の受講者、リタイア後、複数の講座に参加されてきた方、現職の教員で大学院でスキルアップを目的に学んでいる先生など、様々な場所、学習機会の情報をキャッチしながら、生涯学習を実践している参加者から、自己紹介を含めて「現在の学び」を語ることからスタートしました。受講内容、学習情報の受け取り方法、講座を受講してみたの体験談、「本当に学びたいことを学べているのか？」という議論、「講師の話す内容はおもしろいのか？」「講座が難しい時もある・・・」「つまらない講義の場合は？」という率直な意見が出されていました。

途中で、実際に市民大学で講師を担当している竹内先生にも入っていただき、大学の講義と市民大学の講座では、講師側からみて大きく異なっていること、内容的に講義時の配慮などについて語っていただきました。次に、「どのような学習機会を希望するのか・・・」という流れになりました。「講座終了後も講師と話したい」「交流したい」「講師と受講者で、講座のテーマに関わる内容を含めた見学、体験等の旅行したい」「継続の講座（振り返りの講座・次のステップの

講座)を設けてほしい」など多くの提案がありました。直ぐに、実現可能な要望も含め、様々な意見をいただきました。

(2) 本ワークショップの感想をお願いいたします。

「ワークショップ」を知らないで参加された方もいましたので、もう少し広報(チラシ)で説明が必要と考えます。全体的を通してみると、限られた時間でワークを実施しているので、少し忙しかったように思えます。参加者は、「もっと話したい、意見を出したい。」というワークに積極的に参加する姿勢が見られました。討議の時間が短かったようです。「話したりない」との意見もありました。全体的に楽しくワークをしていたように考えます。次回の実施への期待度もあったように思えました。

【Cグループ発表内容】

9人ぐらいのメンバーで、一応、発表させていただきます。そんなに私ベテランではないので。本当にいろいろと意見がでて、このメンバーは、私はオープン・クラスだったんですけども、公開講座の方、サテライト、とかね。そういう人達と交わって。それから、学生さんは3人。そして講師。皆さんいろいろ議論が出て、オープン・クラス、公開講座、どのようにあったらいいか、献身的な意見がたくさんでました。

一つは問題点。「おとなの学びをワークショップで語ろう」の一つのとらえ方として、問題点、改善点、それから今後こうあるべきと、そういうのをまとめました。一つは、学ぶことは学んだけど、トップダウン、その後の学んだあとのフォローがない。いわゆる意見の交換の場が少ない。家帰ってそれぞれ自分の思いで考えとるだけだと。それから、若き学生さんですけども、いろんな学びはしたいんだけど、時間的余裕がないということで、開催は、ウィークデーではなく土日をお願いしたいと。それからもう一つは、昨今の社会情勢で、いつやりますとかは、電子メールと、インターネットですね。そういうのでは、年輩の方は、やはり入らない、情報がこない、という問題がございました。それからもう一つは、講座など、もっと聴きたかった、深入りした方がいいと。そういう意見もあったと。公開講座にはレベルがあるもので、それは難しいんですけども、後からコミュニケーションの場があれば、よりベターじゃないかと。

その他、改善点についてもつとめましたけど、一つ大きな共通の課題は、コミュニケーションです。オープン・クラスであろうと、公開講座であろうと、せっかく集ったんだから、コミュニケーションする場がほしい。そういうことです。

【Cグループファシリテーター(清水まさ志:富大公開講座講師)からの感想】

(1) 討議の流れはどのようなものでしたか。

それぞれのワークに当てられた時間が短かく、参加者に一人一人述べてもらうだけで時間が過ぎ、相互的な討議にまで至らなかったのが悔やまれます。

時間が短いので、参加者それぞれが自分の意見をまとめられるよう、ポストイットに書く時間を多めにとりました。討議には至らなくとも、参加者が他の参加者の意見を明確に把握できるようにしました。Cグループの模造紙をみれば、それぞれの方の考えが割と具体的に把握できると思います。模造紙係は手際を考えて一番年少の学部学生にお願いしました。

そのためワーク①と②では、個別の意見を述べるのに時間がかかり、時間をオーバーしました

が、まとめの際には、それぞれの意見の共通点や課題がグループ内で明瞭になり、それまで個々が書いたポストイットを並べるだけで、むしろ手早くまとめることが可能になりました。

発表者の選択に関しては、グループ内でまとめて発表が上手そうな若い方よりも、一般参加者の生の声を反映し、今回のワークショップ全体に活気と調子を与えられるような年配の方をお願いしました。

(2) 本ワークショップの感想をお願いいたします。

私も公開講座を担当する人間ですので、参加者それぞれの意見は、これからの講座運営に大変参考になりました。受講者が、役割や年代を越えた相互的で横断的な人とのコミュニケーションをもっと求めている点で、講座内容というよりは講座内の運営の仕方に改善が求められていると感じました。

Eグループのまとめが、大学の公開講座の批判に終始したのは気になりました。語学を担当する人間としては、公開講座の値段は一般に比べてとても安いもので、少々不当に聞こえました。ただこの批判の源を想像すると、これもやはり講座内の運営の仕方の改善を求めているのではないかと思います。学生、一般の両方で教えていて感じるのは、学生にとって「学び」は何かのため（単位、資格、就職など）の「手段」の側面が強いのですが、一般の方にとって「学び」はそれ自体が「目的」の側面が強いです。日頃学生を教えているままのやり方で一般の方を教えたのでは、一般の方は満足感が得られないのではないかと推測いたします。

「新しい公開講座」は、テーマや内容というよりその講座内の運営の仕方を見直すことにあると思います。教養教育では、毎年学生アンケートの結果に基づき「グッドプラクティス」として担当者が授業のやり方を発表していますが、そのような機会が公開講座でもあれば担当者同士でノウハウを共有できるかも知れません。

【Dグループ発表内容】

いろいろ出たんですけど、結論的に、学びを広げるためにどうしようか、ということを考えていく方向になりまして、まず、色んな学問があるかと思うんですけど、「講座同士のつながり」がありまして、色んな事を勉強して、総合的に学べる機会、というのがいまないと思ったので、講座同士のつながりということを書かせていただきました。次に、働き世代が参加しやすい、と書きました。例えば定年後の方とか、学生とかは時間があるんですけど、一番学びが必要な働き世代は本当に時間がなくて、こういうことにもなかなか参加できませんし、学ぶ時間、機会がないと。働き世代が参加できるように、どうすればよいのかを考えると、ここに評価の仕組みということを書かせていただきました。働く世代がこういうことに参加し学ぶことによって、例えば会社側がそれを評価してくれれば、参加しやすいと思いませんか？ 最後は人とのネットワークということになるんですけど、いろんな班の人が言っていましたけど、私たちの班でも同じ事がでて、学びって、楽しさが必要だと思うんですね。その楽しさのために、人とのネットワークというのがどうしても必要で、本当に忙しすぎて学ぶ機会が無いと心がしぼんでしまうと思うんですね。そのために、生きる支え、最終的にはこれ「人とのネットワーク」になります。

【Dグループファシリテーター（橋本勝：大学教育支援センター）からの感想】

（１）討議の流れはどのようなものでしたか。

比較的スムーズだったと思います。

但し、いわゆる「場づくり」の大切さという観点から、D班では、私の判断で最初の15分ほどを自己紹介に割いたこともあり、せめてあと10分グループ討議の時間があれば良かったかなと思います。あるいは、同じ時間設定しか無理なら、せめて1グループの人数を7～8人までにとどめられると良かったのではないのでしょうか。

流れとしては、グループ内に話し出すと長くなる人がおられて、その人の話の腰をどこで折るかに少し苦労しました。元教師の職業病みたいなものでしたから無理に止めませんでした。その分、他の参加者の発言時間がかなり制約されたのはファシリテーターとして、ややまずかったと反省しています。

また、D班は、企画者の指示に従い、また発表用の画用紙の見やすさを考慮して、直接サインペンで文字を大きく書くようにしましたが、他班の中には画用紙にも付箋紙を貼り付け、参加者全体に「見せる」意味がほとんどなくなっているものがあるものもいくつかあり、発表用の画用紙の使い方が共通認識されていなかったのがやや気になりました。

（２）本ワークショップの感想をお願いいたします。

様々な人が意見交流すること自体が有意義なものですし、協働で何かを作り上げる作業は有効なのですが、KJ法は人数が多いと反対側の席から見にくくなるのと時間が不十分だと一人一人が付箋紙を貼るのがタイミングを取りづらくなる難点がありますから、協働作業の方法をもう少し考えられた方が良くと思います。私は自分で企画する時はKJ法は使いません。

ともあれ、まずまずの成功を共に喜びたいと存じます。

【Eグループ発表内容】

我々のグループでは、いくつかのアイデアが出ましたのでそれを発表したいと思います。まず、お金がかかりすぎると言うことです。色々な人が参加しているんですけど、市民大学では500円、1000円なんですけど、富大の講座になると1万円に跳ね上がる。これに関連して、期待に応えるものを出して欲しいと。1万円払っているのだから、その分の価値のあるものをくれと。これも富大の講座なんですけど、毎年同じものをやっているそうですね。去年やったことと今年やったことで、ステップアップがないそうです。つまり、毎年毎年、その講義に興味があるのにも関わらず、同じ講義を聞かされる。来年受ける価値がないじゃないかと。次に、これもまた大学なんですけど、大学の先生というと研究をしていらっしゃる。であれば、その講義としては、教える場なのか、研究発表の場なのか、どっちに傾くのかということをもっとつきつめて考えて欲しい。つまり自分の研究を講義の中で発表して欲しい、ということになりました。最後に、海外研修を利用する、ということ。まったくしゃべれない人でも、カタコトでもいいので、外国に行って、色々な国から来た、英語がしゃべれない人たちと一緒にしゃべることによって、教養を高めていこう、ということ。さらに、いろいろな世代の人たちと交流し、世代を超えて学びたい、ということになりました。

【Eグループファシリテーター（仲嶺政光：生涯学習部門）からの感想】

（1）討議の流れはどのようなものでしたか。

- ・ 最初の出だし、「今の学び」については、実に多様な学びが実践されていることがうかがわれた。
- ・ その一方、学びの「多様さ」があること自体にどんな意味があるのか、というところまでは発展が難しかった。
- ・ 模造紙担当者を決めきれず、やむを得ずファシリテーターがそれを担当した。
- ・ 模造紙を用いると、各人の意見を分類しまとめるのに有効だが、皆がただちにその内容全体を理解できない（模造紙の反対側に座っている人には）、という指摘があった。これは、ファシリテーターが一つずつ説明を加えることで解決した。
- ・ 少々時間が足りなくなったが、最後は「若い世代と学びたい」「受講料を支払った分学びたい」など、具体的な学びの話題で終えることができた。

（2）本ワークショップの感想をお願いいたします。

- ・ 発言中、「何のために学ぶのか」という根本的な発言があったが、うまく応答ができなかった。
- ・ 同様に、「講師にあたりはずれがあって、まるで宝くじだ」という批判的な意見もあった。
- ・ 歴史など地域に根ざした学習を志向する人がいる一方、海外研修を希望する方もおり、学習内容の多様さが出てよかったと思う。

【Fグループ発表内容】

これからの学びということについて考えたとき、まず参加しやすい環境がないと学ぶことができないだろうということで、会場の場所とか、休日にやっていただきたいとか、あるいは逆に平日の方がいいという方もいらっしゃるのかも知れませんが、参加される方によって、そういう参加しやすい環境をつくっていただくのがまず大事ではないのかな、ということがでてきました。それから、学びたい内容の方なんですけど、例えば、越中人の精神史みたいなのところとか、まちづくりのような地域的なものや、あと地域からさらに広がって、グローバルなもの、それから語学ですね。それから、脳科学、天文学、宇宙論についての最新の知識。あとは、身近な生活のニーズにマッチしたもの、というのが多く出ていました。そういう各論的なものというのは、今も講座として一つひとつ、完結型で設けられているかと思いますが、そこからさらに発展して、学んだことを実践していく場が欲しいな、という話が出ていました。実践をしてさらに深めていく、それぞれの講座の中での学び、あるいは普段の皆さまの生活の中での学びを、生涯学習ということで、それぞれ学んだものを情報交換する場、先ほどからコミュニケーションとかかわり合いとかいう言葉が出てはいるんですが、自分が一人で学びっぱなしになるのではなくて、それを情報交換する中で、さらに見識が広がっていったりとか、個人としての学びも、全体としての学びも深まるのではないかな、といった話が出ておりました。

【Fグループファシリテーター（堀江秀夫：芸術文化学部）からの感想】

（1）討議の流れはどのようなものでしたか。

ファシリテーターの私が進行し過ぎてしまい、反省しています。

短時間の中で、全員の自己紹介や意見を促すのは、大変でした。しかし、参加者は、積極的な人たちがばかりなので何とか予定どおりの討議をすることができたと思っています。

(2) 本ワークショップの感想をお願いいたします。

- ・10人1グループは多過ぎると感じました。5～6名程度がよいのでは。
- ・時間は短か過ぎると感じました。参加者は一言ある人達なので、一人ひとり、もう少し発言できる時間があつた方がよいのでは。
- ・私としては、今後、公開講座を担当する上で、大変参考になりました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

5. まとめ

以上の発表内容とファシリテータコメントから、次のような諸点が浮き上がってきた。

(1) 人間的なまなびのつながりを

参加者からの声の中で印象的だったのが、「横のつながり」、あるいは「講師とのつながり」「講座間のつながり」を求める意見であった。なぜ今学びの「つながり」が求められるのか。今日、ワークショップ形式の学びが広がりをみせつつあるものの、講師から一方的にメッセージを受け取るだけの学習形態が依然として多い。しかしながら、そのような学びには受動的で個々バラバラの理解にとどまるという弱点がある。公開講座の受講者の背景は様々である。「中には満足しておられる方もいらっしゃるけれど、どうしても必要にせまられて学んでいるという方もいらっしゃいました」。そうした中、「一人で学びっぱなし」の状態を克服し、互いの学びや理解の仕方がどのようなものか、ということを交流しあう発展的な形が求められている。そこには、「おとなの学び」というものに固有の特質があるのかも知れない。

(2) ミスマッチの解消に向けて

受講前に予想し思い描いていた学びと、実際に学んだことが異なる場合がある。むしろ両者が完全に一致することは稀なことなのかも知れない（場合によってはその不一致が予期せずよい結果につながる場合もあるだろう）。参加者からの意見として、できる限り学びの「ミスマッチ」を解消すべきであるという問題が出された。講座に「当たり外れがある」と述べた参加者もいた。その背後には、指導者と受講生の関係づくりが不十分であることが考えられる。事前・事後のギャップを埋めるにはどうしたらよいのか。その解決法として、できるだけ事前に講座の詳細を準備し、「講座内容の明示化」「ガイダンスの実施」をすべきであること、「講師と受講生をつなぐもの」をつくりだすこと、が解決策としてあげられた。この他、議論の中で紹介された講座の「OB会」による学習支援は、講師-受講生関係を円滑にするものとしても興味深い取り組みといえる。

(3) 学びのフォローとステップアップをめぐる

公開講座の開講期間は様々であろうが、どんな講座にも「始まり」と「終わり」の区切りがある。生涯学習実践者にとってのきわめて大きな課題として、自らの学びを振り返り、「次なる学習展望」

をどう描くか、ということがある。公開講座は参加が自由意志にゆだねられる分、学びの評価もまた自分自身で引き受ける部分大きい。「継続の講座（振り返りの講座・次のステップの講座）を設けてほしい」という声は、その人が新たなやりがいを見つけ継続する上で切実なものである。ある一定程度学んだのち、次なるステップとなる適切な講座がどこに存在するのか、広く情報が行きわたる環境の整備も一層重要になるだろう。とりわけ、「電子メールと、インターネットですね。そういうのでは、年輩の方は、やはり入らない、情報がこない、という問題」があるという指摘は念頭に置いておく必要がある。

*

議論の時間が短かった、1グループの人数がやや多すぎた、などの課題が指摘されたものの、概ね盛況な行事になったと思われる。末尾のアンケート結果をみると、76%が「満足」、81%が「今後活かしたい」、85%が「参考になるコメントがあった」、と回答している。自由記述でも、異世代間交流の効果などを中心に好評価が多く綴られている。

本ワークショップは、『災害が起きたらどうなる？』（H24.2.25）、地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議『災害が起きたらどうする？』（H24.7.7）をふまえた3度目の試みである。いずれのワークショップにおいても、相互交流・対話の大切さが指摘されている。「今後、また開いていただきたい」など、「次回の実施への期待度」も高い。今後もまた学びの交流・対話の機会を積極的に企画していく必要があると考える。

謝辞

本ワークショップの企画・実施にあたり、富山県教育委員会、富山市教育委員会、高岡市教育委員会からご後援をいただいた。とりわけ、富山県民生涯学習カレッジと富山市市民学習センター関係者各位には、事前PRに相当なご尽力をいただいた。心よりお礼を述べたい。

— アンケート結果 —

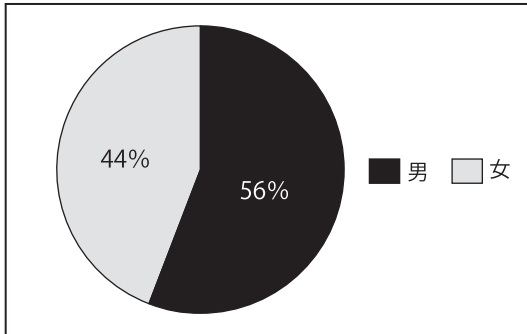
参加者数 57名

アンケート回答者数 54名（回答率 94.7%）

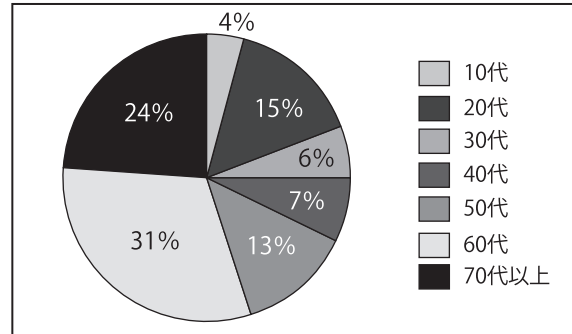
【1】年齢と性別についておたずねします。

（年齢は平成25年4月1日時点でご回答ください。）

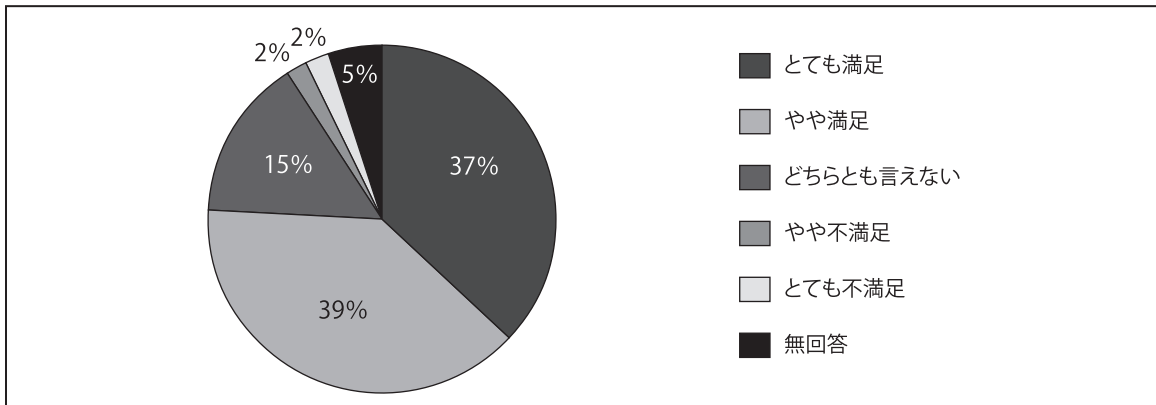
性別



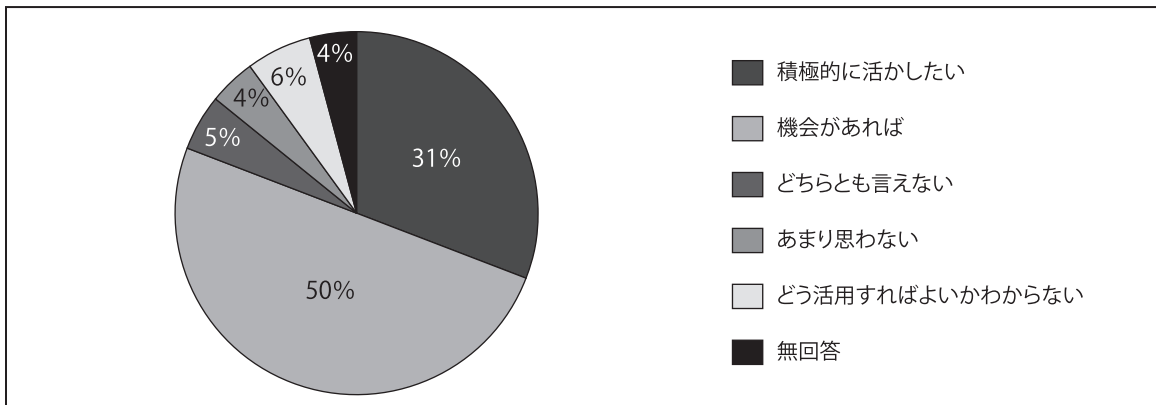
年齢



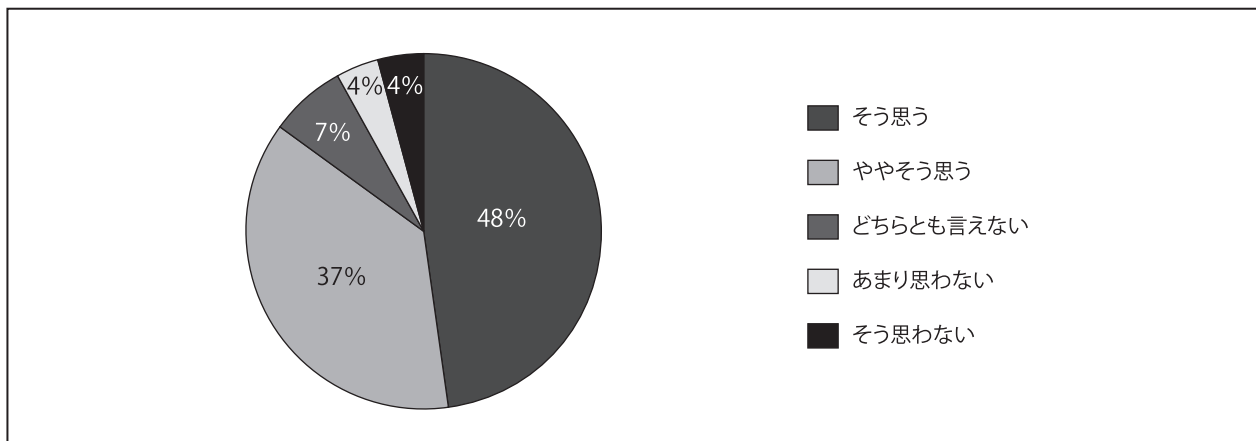
【2】ワークショップの満足度についておたずねします。



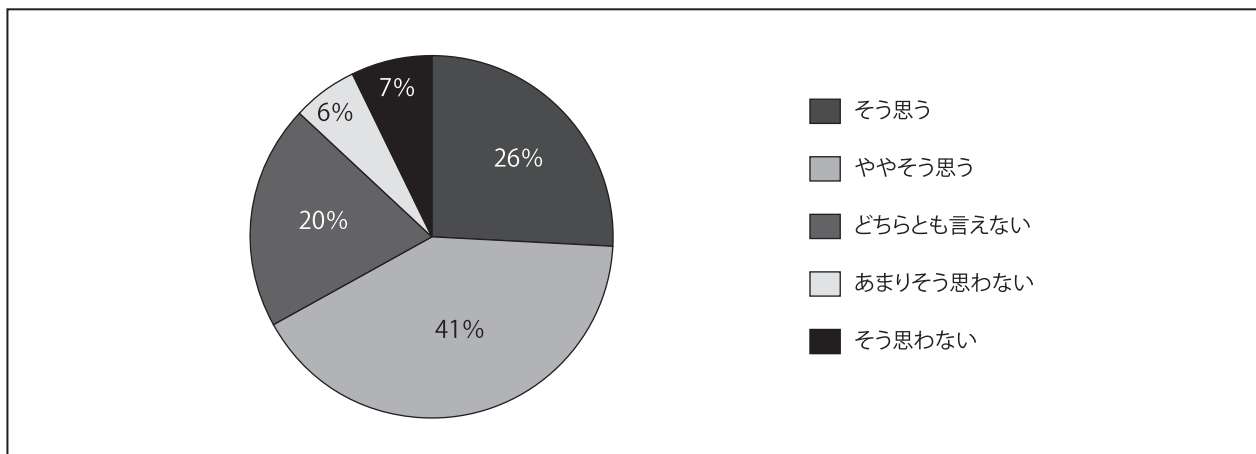
【3】ワークショップを今後に活かしたいと思いますか？



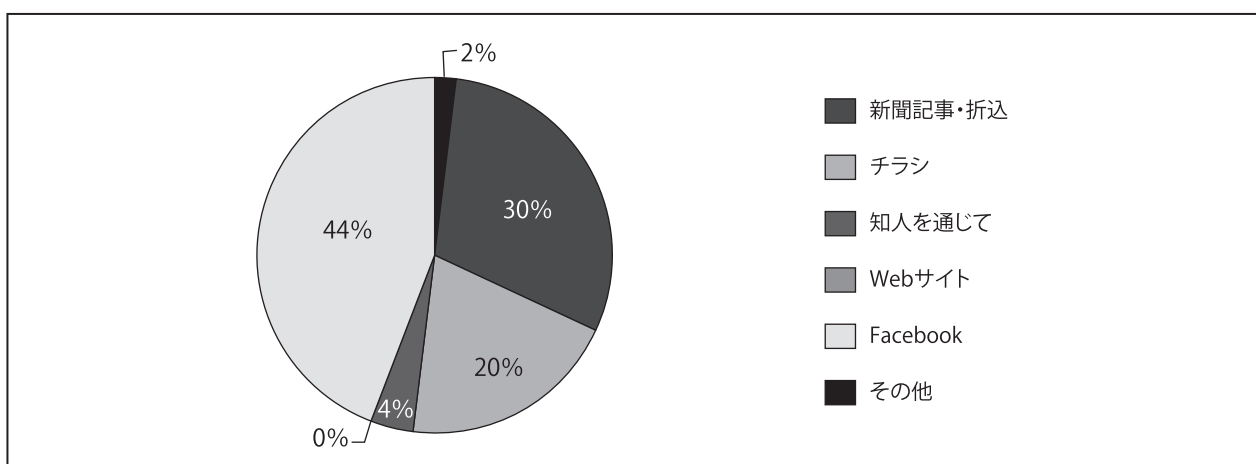
【4】ワークショップで参考になるコメントはありましたか？



【5】ワークショップで学びに対するご自身の意識は変わりましたか？



【6】ワークショップはどのようにお知りになりましたか。



【7】ワークショップでどんなことに気づきましたか。

- 自分の視野・展望の狭さを実感しました。より広い目で見れるようにしたいと思いました。
- 学びを生きがいにするということについて、上の世代の方の話を聞いてようやく理解したきがします。別世代の方の話を聞くことは大切ですね。
- 様々な年代のみなさん（人生の先輩・後輩）の意見を聞くことはとてもよい、必要、刺激になる。
- 熱のある方々、それぞれの学び、経験の豊富さ。こういうものを交流できる場が大切だと思いました。
- いろいろな方がいろいろな学びをしていること。
- 市民大学や県民カレッジといった、自分の知らない学びの場があることを知った。また、そのような場に多くの退職した人や就業中の人が出て、予想以上に多くて驚いた。
- 自分が持っていない文脈のことは、理解するのにズレが出たり、時間がかかる。
- 毎年同じ内容の講座であっても、その事が明示されていればよいのでは？むしろそういう講座も必要。見せ方次第。ものは言いよう。「落第者向けの講座」→「弱点克服集中トレーニング」とか。
- 自分の祖父母と同年代の方々と様々な話ができて、考えの違いを知ることができた。
- 積極的に様々なことを学んでおられる先輩方がたくさんいること。それぞれ満足している点、不満に思っている点があるということ。
- 学びたいという意欲のある人が多く、内容も多彩であること。
- 皆様のご意見は大変参考になりました。
- 「学び」について改めて考えさせられました。学生さんからシニアの方々の様々な意見を聞いてよかったです。
- いろいろな方々が様々な学びをしておられることに感心し、自分の学びの参考にしたいと思います。
- 大学の授業（オープンクラス）の在り方。開講初めの途中でもよい、先生自身のプロフィールを話していただきたい
- 本日の交流の重要性。
- 学んでいる人がコミュニケーションを求めていること。
- 学ぶ欲求が高いのにびっくりでした。
- あまりにも自分の中に閉じこもりがちであったことに気が付きました。
- 大学が気づいてくれて来ている事は喜ばしい事です。
- みなさんがいろいろと学んでいる方なのでついていけない。
- 結局はコミュニケーションです。結婚もコミュニケーションがうまくなければできない。就活の面接もコミュニケーションです。
- ご自分の目指す向上心のある姿勢が伺われて素晴らしい思い、またうらやましいと思った。
- ファシリテーターの技量、時間。
- 学びの場を求める方が沢山おられて良かったです。
- 10名の方々のご意見が聞けてすごい参考になったし、又、すごく楽しい思いがいっぱいありました。

【8】 ワークショップで伝えきれなかった活動や考えがありましたら、ご自由にお書きください。

- 働き盛りの参加機会、社会・世界の動き→インターネット利用は不可欠。実はたくさんの潜在的学習希望者がいる！！
- 受講者の横のつながりがほしい。
- 学びの場が年を取っても役に立つものに考えて。年齢を重ねても使えるもの。
- 地域社会の様々な問題解決のためのヒントが得られる様な科目を…
- 大学の専門性を活かすことが大事。
- 色々な意見があるのでびっくりです。
- 逆に、あえて学ばない、という生き方もあると思う。
- 国際交流、ボランティア活動。
- 伝統空手を主人が教えています。体を動かし、文化を学べる講座が開けるのではと思いました。
- 今後ズーッと公開講座が続くことを願っております。いろいろな面でのお話を聞くことができるとはすばらしいことだと思っております。

【9】 その他、ご意見・ご感想などありましたら、自由にお書きください。

- 今日の企画の流れを現在自分たち学生が企画しているトークイベントに生かしていきたいと思いました。慣れないことなので、今日は本当に参考になること、得るものが多くあり、また、楽しくトークできてよかったと思います。また参加したいと思います。
- 多年代交流っていいですね。生涯学習の場で体験できることの1つだと思います。
- 参加経験者向けの発展的な講座があること、コミュニケーションの場があることで学びが深まるように思いました。
- 学びの意欲、内容を高めるのは、評価のしくみ。企画の理解+参加のバリア。学びを活かせるしくみ：県、市町村、公民館、学校、地域ぐるみで認める仕組み。自己評価のしくみ：積み重ねを活かす意欲づくり。
- 大学の公開講座や様々な講座を受講していらっしゃる方々と接することができて良かったです。大学院で学んでいても感じたことですが、自分よりも上の世代の方が、楽しく、学んでおられるということを知れて良かったです。とても刺激になりました。
- ①学びと趣味、実用の境界は？ある？ない？
 - ②研究者特権のようなものはあるのでしょうか？ふつうは見学できないところが見られるとか。
- 最後の発表の時は、PCカメラのような拡大できるものがあると見やすかったように思います。
- 楽しかったです。世界・視野が広がりました。
- また機会があれば参加したいです。参考になりました。
- 県東部に住んでいます。集まる人数は少ないかもしれませんが、ぜひサテライト講座を新川地区で開催してほしいです。富大医学部と黒部市民病院との連携公開講座など。
- 不安に思いながら参加しましたが、リードして下さる先生や学生さんの協力者のお蔭で楽しいワークショップでした。
- 今日のワークショップの機会に参加でき、多くの方の意見をうかがえて良かったです。今後の人

生の参考にしたいと思います。

○今日のようなスタイルを年に2回くらいでどうでしょうか。

○目からうろこでした。今後もこのような機会があればいいです。

○大変よかったです。

○もっと積極的に参加することを考えたい。

○参加（出席）したい行事、講座、講演を把握できないことがあるので、これを見たらすべてのものが分かるようなシステムがあればよい。

○知的好奇心を満たし、学んで何をしようということない。

○公開講座の乱立で、質の高いものを希望したい。

勉学は本、インターネットでも十分にできるが、足で会場まで行き、講師の立派な話をきくということが重要だと思う。

富山県内の大学が統一して、公開講座を開催したら？経費の節約にもなる。

○海外研修につながる実践的コース。語学コース、資格を取り、自己のステップアップ。

○各自の生き方、学び方がいろいろ多種あり、とても参考になりました。

○富大の講座がもっと講座数が多く、広い視野のものであればと願います。カレッジの内容の講座を参考にしていだければ。

○Eグループの方の仲間に出ておられる方がいらして、すごく感動しました。ディスカッションするという場があるという今日の体験が楽しかったので、今後、また開いていただきたいと思っています。

○誰がリーダーをどういう見識で選んだのか不明。進行・運営について一考を要す。私と思考・立場を異にする。「個の確立」をした上でなされていない今の現状から何も生まれてこない。グループだったが二人の老人を独占して人の話をよく聞かず…私の発言を止めた。つまりリーダーが悪い。なってない。

「おとなの学びをワークショップで語ろう！」

アンケート (H25 年 11 月 2 日)

おとなの学びをワークショップで語ろう！にご参加くださり、誠にありがとうございます。
今後の参考資料とするために、皆様からのご意見をいただきたく、アンケート調査のご協力をお願いいたします。

【1】年齢と性別についておたずねします（年齢は平成 25 年 4 月 1 日時点でご回答下さい）。

性別： 1 男性 2 女性

年齢： 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代 7 70代以上

【2】ワークショップの満足度についておたずねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

1 とても満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満足 5 とても不満足

【3】ワークショップを今後に活かしたいと思えますか？あてはまる番号に○をつけて下さい。

1 積極的に活かしたい 2 機会があれば 3 どちらとも言えない 4 あまり思わない
5 どう活用すればよいかわからない

【4】ワークショップで参考になるコメントはありましたか？あてはまる番号に○をつけて下さい。

1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらとも言えない 4 あまりそう思わない
5 そう思わない

【5】ワークショップで学びに対するご自身の意識は変わりましたか？あてはまる番号に○をつけて下さい。

1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらとも言えない 4 あまりそう思わない
5 そう思わない

